

生命環境系の防災本部の

機能強化を実現！

「震災は忘れた頃にやってくる」——
2011年3月11日14:46 東日本を襲ったマグネチュード8.4（気象庁発表値）・震度7の大地震がもたらした被害は、私たちにこのことをまざまざと知らしめました。

筑波大学キャンパスでも震災当時、沢山の学生、教職員が学内に留まることとなりました。

震源地から離れた都市圏でもライフラインが断たれたことで、多くの人々が「帰宅難民」と化した状況からも、「地震大国・日本」の防災機能がいかに脆弱なものであるか、既に御存知のことでしょう。

通信機能が切断された中では、それぞれ身体の安全性を最優先し、避難場所へと誘導することが最優先です。また、交通機関や道路情報、余震情報などは、安心安全の確保に不可欠です。

科学の街つくばから発信する

筑波大学の減災システム「いざ！パワー」

この減災システムの構築は、筑波大学発ベンチャー企業と石田政義教授（システム情報工学研究科）が開発したものです。

このシステムは、災害時の迅速な避難誘導に不可欠な電源の確保のために開発された装置です。



効果：

- ◎防災本部の機能強化
- 避難路確保
- 通信網の確保
- 避難場所の確保
- 照明の確保による安全安心感の確保

平常時には、太陽光エネルギーを利用したLED照明として常時使用します。主電源は太陽光パネルで、曇天時にAC電源に切り替わります。停電時には自動的に蓄電池に切り換わることで、電源のバックアップを図り、「迅速な情報伝達」が可能となります。

生命環境系長室は、この減災システムにより、無停電の「災害対策本部」として、緊急対応能力の機能アップを実現しました。

減災対応電源システムのイメージ

